

風疹・麻疹ワクチン（MR）について

<麻疹>

2017年夏、アジアからの輸入感染事例が多く報告されました。

症状は口腔内粘膜のただれ（コプリック斑）、高熱、発疹を特徴とします。

通常7－10日間で自然治癒しますが、脳炎や肺炎を合併すると重症化することもあります。

感染経路は**空気感染**ですので、防御法として手洗いやマスクでは不十分で**ワクチン接種**が必要となります。

<風疹>

2018年、関東を中心に感染の拡大が報告されています。

（10月末までで前年の**21倍**の感染者数です）

感染経路は**飛沫感染**です。

症状は、発熱、発疹、耳後部などのリンパ節腫脹、結膜の充血を特徴とします。

基本的には予後良好の疾患で、通常は1週間程度で自然に治る病気です。

風疹にまつわる最大の問題は妊娠**20週**までに妊婦に感染した場合におこる

先天性風疹症候群です。母体が風疹に罹患すると胎児に心疾患、難聴、白内障、網膜症などさまざまな障害が発症する危険が生じるわけです。

<風疹・麻疹ワクチン（MR）>

現在、風疹ないし麻疹の感染予防で使えるワクチンです。

日本では1970年台から2000年台にかけて度々ワクチン政策が変更されたために、風疹ワクチンに関しては女性で**28歳7か月**（2018年11月現在）以上の男子、女子ともに1回または1回も接種なしが現状です*。

そのために**30－50代**の風疹の抗体価が低下しており、感染の拡大が生じているようです。

2018年秋までに先天性風疹症候群の報告はありませんが、**2013年**には全国で成人男性を中心に風疹が流行し、この年**45人**の先天性風疹症候群の報告がありました。

先天性風疹症候群予防のために、**28歳**（2018年11月現在）以上の方、特に妊娠を希望されるご家族がおられる場合、**MRワクチン**の接種を受けることをお勧めします。

<ワクチン接種上の注意事項>

1) **妊娠中MRワクチンは接種できません。**

MRワクチン接種後、**2か月間避妊**する必要があります。

2) MRワクチンは**生ワクチン**なので、注射後**27日**以上たたなければ次のワクチン（インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン、BCG、水痘ワクチンなど）を受けることがで

きません。

3) インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンなどの**不活化ワクチン**接種後は**6日**以上たてば**MR**ワクチンを接種することはできます。

4) 1か月以内に2つのワクチンを注射される場合には、前のワクチンが不活化ワクチンか生ワクチンかを医療機関で確認してください。

5) 現在、**MR**ワクチンは

第1期：生後12か月—24ヶ月

第2期：5歳以上7歳未満

の定期接種となっています。

ワクチンは1回接種で95%、2回接種で99%免疫が獲得されると考えられています。